



愛川ふれあいの村 今月の風景

# 2025年11月 自然のたより

11月7日の立冬は暦の上では「冬の始まり」を意味し、この時期に冬支度を始める目安とされています。村の木々たちの冬支度は紅葉です。銀杏の鮮やかな黄色、緑から黄色そして赤に変わるグラデーションカラーのイロハモミジ。圧巻なのは、朝日を浴びて黄金色に輝くメタセコイアです。それぞれが個性豊かな姿を見せてくれます。冬鳥もやって来ました。去年はなかなかやって来なかったツグミは、例年よりも2週間以上も早い11月3日に来村しました。最近の気候変動は、野鳥たちの渡りにも影響を与えているように感じます。それでも毎年、来村して美しい姿や囀りを聞かせてくれる野鳥たちに感謝です。（高梨）



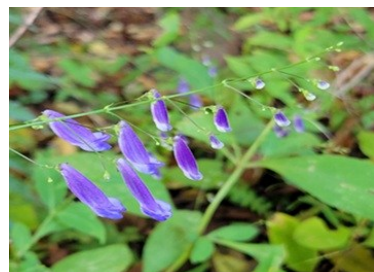
秋の七草フジバカマ



ホウノキの冬芽



10月28日来村ジョウビタキ（雄）



セキヤノアキチョウジ



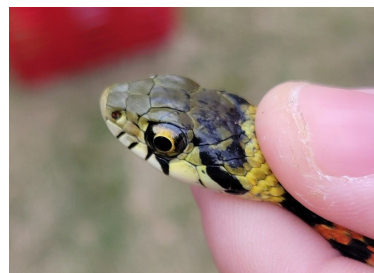
コフキサルノコシカケ



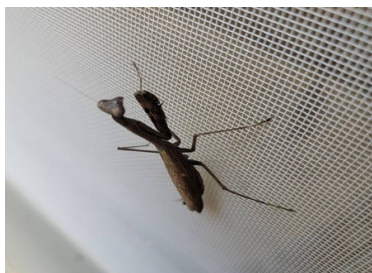
猛毒のカエンタケ



ミツマタ春の準備



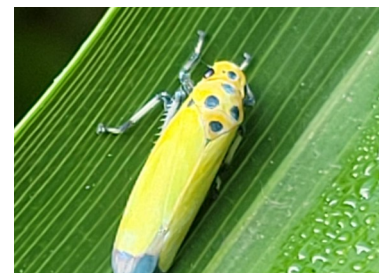
ヤマカガシ



産卵間近のコカマキリ



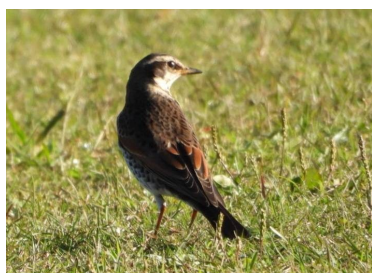
ウスキヌカギバ



オオツマグロヨコバイ



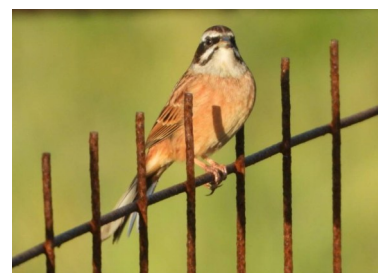
ジョウビタキ（雌）



11月3日来村ツグミ



モズ（雌）



ホオジロ（雄）



## トピックス ★三色の紅葉★

朝晩の気温がぐっと下がるようになりました。愛川ふれあいの村では木々が紅葉し、周囲の山も赤や黄、橙へと色を変えています。そんな紅葉ですが、なぜ色が変わるのか不思議に思いませんか？

実は紅葉は「木の冬支度」。私たちが冬に向け、秋の味覚で栄養を取り込むように、木々は日照時間が短くなり光合成がしにくくなると、葉を維持するエネルギーをほかに回すために、葉を落とします。その過程で色が変わるのです。

葉にはクロロフィルという物質が多く含まれており、これによって通常は緑色に見えます。葉を落とすためにクロロフィルを分解するのですが、分解されて出来上がる物質によって変化する色が違うのです。カテノイドという物質が多くなると黄色に、アントシアニンという物質が多くなると赤に、フロバフェンという物質が多くなると茶色に変化します。美しい紅葉には、少し難しい科学の不思議があったのですね。

村には、黄・赤・茶にそれぞれ紅葉するイチョウ、モミジ、メタセコイアが植えてあります。村の特色の一つ「三色の紅葉」を見ることができるのはこの時期だけです。特に11月下旬はメタセコイアが見ごろになります。朝と夕方は、斜めに差し込んだ日の光に照らされ橙色に見え、より一層美しく感じます。

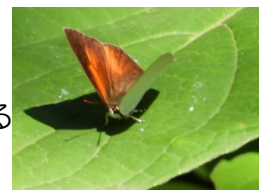
年々秋が短くなっているとの報道もあります。日本の四季を感じるものが少しでも多く残るように、自然と自然を愛する心を大切にしていきたいです。（袖山）



## 生き物 ★ウラギンシジミ★

太陽の光を浴びてキラキラ光っている蝶を見たことありませんか？

ウラギンシジミチョウといって、翅の裏は、白一色。光が当たると銀箔をはったようにとキラキラ光って見えます。ウラギンシジミの名の由来は、裏の翅が銀色に見えることからついたようです。表の翅色はオス・メス共に濃い茶褐色で、オスは中央付近にオレンジ色にメスは白色から灰色の斑紋があります。シジミと名前がついていますが、他のシジミと全く違っていてヤマトシジミと比べると2倍位の大きさがあり、翅の先端が角ばっているのが特徴です。クヌギ・コナラ等の雑木林などで多く見られます。暖かい日差しのある時に、散歩してはいかがでしょうか。日の光を浴びてキラキラと光っている蝶を見ることができるかもしれません。（菅原）

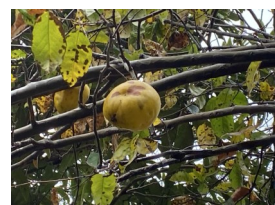


## 旬 ★カリン★

村内に生えているカリンの木から、今年は一斉に実がつき始めました。カリンはとても固い果物で、生で食べることができませんが、はちみつ漬けにしたり果実酒にしたりと、色々な使い道があります。

カリンといえば香りがとてもいいのも特徴のひとつです。漬けこむことで甘くさわやかな香りがしっかり移ります。香りの強さは果実酒の中でもトップクラスといわれます。薬用成分が多く含まれているため昔は漢方として使われていて、現在でものど飴に使われています。

体調を崩しやすい季節の変わり目に、カリンを食べて免疫をつけると良いかもしれませんね。（安田）



## 来月の見どころ 冬越しをする生き物たち

冬に咲くサザンカ、ツバキの花は元気がいっぱい！で小鳥たちが集まる。ヤツデの葉はあまり目立たないが、白い花はよく目立ちマルハナバチやホソヒラタアブが集まり賑やかである。冬越しをするキタテハもどこからともなく現れ、ヤツデの花に止まっていた。小さな花の上を行ったり来たりしながら長い口吻を伸ばし下の方にある蜜を探していた。（上の写真）

また、樹木や岩石などに着生している地衣類もこの時期が観察に適している。このハクテングケはウメノキゴケに似るが、地衣体の表面に白い点が見られる事で区別できる。着生したウメノキゴケ類は、樹木から栄養を取ることもなく大気の中から水分や養分を取っているのが大気汚染の指標植物として研究者が発表している。

冬は、昆虫や植物たちの生きている姿を観察する絶好の季節です。キタテハやハクテングケを見ながら、生き物を大切に、質素な中にも心豊かな生活を送りたいと思った。（吉田）

